

2003.FEB.  
福岡歯科学園広報誌  
Vol.11 NO.1

# NEW SOPHIA

ニュー  
ソフィア



福岡歯科大学本館玄関ホール

「愛」宮崎進・作  
(福岡歯科大学同窓会寄贈)

## CONTENTS

- 理事長・学長年頭挨拶 ..... 2
- 福岡歯科大学長に本田教授 ..... 3
- 学術フロンティア研究外部評価を実施 ..... 4
- WHAT'S NEW IN THE LABORATORIES / 研究室最前線 ..... 5
- FROM PARENTS / 父兄からのメッセージ ..... 6
- FROM THE ALUMNI ASSOCIATION / 同窓会だより ..... 7
- 平成15年度入試日程、ミャンマーでボランティア ..... 8

# 理事長・学長年頭挨拶

平成15年1月6日に行われた業務始めの式で、田中健藏理事長、青野一哉学長からそれぞれ次のとおり年頭挨拶があった。



みなさん、新年明けましておめでとうございます。この1年が、皆様にとって、また福岡歯科学園にとりまして、良い年でありますよう、心から念じて止みません。世の中の動きは大変激しく、いろいろと構造改革が進められてはいますが、経済は依然

として低迷が続いています。国際的にも地域の紛争は続き、テロ事件は多発し、アメリカのイラク攻撃の開始が危惧されており、平和な世界とは言い難い難しい情勢が続いています。紛争が続いているアフガンや中近東、飢餓に悩むアフリカなどに較べれば、日本の社会環境は決して悪いものではないと思います。世界に誇る文化と技術の蓄積が豊富なわが国は、苦しくとも日本人の誇りと自覚をもつて、明るく、希望をもって努力すれば、物心ともに世界から羨ましがられる社会を築くことも出来るのではないかと考えています。

このような社会情勢の中にあつて、本学園が掲げた将来構想は、皆様のご尽力で着実に実行出来ております。昨年、創立30周年の記念行事を無事に終えることが出来ました。今年からは、また心を新たに、先人先達の御苦勞を忘れることなく、一歩一歩前進してまいりたいと思います。

今年4月には、短期大学歯科衛生学科が3年制へと移行します。卒業生が歯科衛生士のリーダー的存在になることを期待します。また10月には、特別養護老人ホーム「サンシャイン プラザ」が開所の予定です。歯学、歯科衛生学、保健福祉学における高齢者歯科学の教育、大学の社会福祉の面での地域貢献のモデルになることを願っています。また、附属病院の活性化の具体的施策、歯科医師需給対策、共用試験実施の問題や都市計画道路、有田・重留線建設に伴うキャンパス構想の策定等の問題があり、いずれの問題も、皆様の御協力、御盡力が不可欠の課題であります。私を含め、教職員が一体となって、「学生が意欲を持って勉学し、同窓生が誇れる母校を目指し、地域の医療に貢献し、歯科医学の発展に寄与する」という目標に向かって、努力したいと思つています。

なお、この6年間、2期にわたり福岡歯科大学発展のために御盡力下さった青野学長が来る1月末で任期満了になられます。先生のこれまでの御盡力に対し、この席をお借りして、衷心より敬意と感謝の意を表します。後任には、本田教授が学長に就任になられます。青野学長の後を引継いで、大学発展のために御精進下さるよう、そして教職員の皆様が本田先生を一致協力してサポートし、大学発展のために御盡力されるよう念じてやみません。

最後に、この1年、皆様の御健康と御多幸とを、そして福岡歯科学園の発展を改めて祈念するとともに、平和で明るく希望が持てる世の中になることを願い、新年の御挨拶と致します。

## 将来構想を着実に実現

理事長

田中健藏

## 「心に残る仕事」を誇りをもって成し遂げよう

学長

青野一哉

教職員の皆さん、明けましておめでとうございます。昨年は福岡歯科大学創立30周年記念事業が円滑に、10月12日に創立30周年記念会が盛会裡に開催されました。さらに9月には第三者評価を、また11月には相互評価を受けました。本学は、創立30周年を契機に、名実ともに充実し、また大学評価に基づく「ブラッシュアップ」に努力を重ね、着実に発展の道を歩んでいます。

新しい年の出発に際し、私は皆さんへ5つの提案をしたいと思います。まず第1に、この一年で何か「心に残る仕事」「充実感のある仕事」を成し遂げよう、ということです。個々人の成果は小さくても、それらが集合すれば大きな流れとなって、多大な成果に結びつきます。少子化社会が進み、大学が生き残るためには大学の独自性、つまり「その大学にしかない特色」が問われることとなります。教職員全員がこの共通の認識の上に立ち、協力し合い、努力していかねければなりません。第2は、情熱をもって学生・臨床研修歯科医を教育しようということです。昨年12月に行われた「シラバス作成のためのワーク・ショップ」では、教員の方々の教育に対する熱い気持がひしひしと感じられました。この熱意の輪を学内に広めて、実際に教育の場に生かすことが必要だと思います。大学院の充実も急務であり、カリキュラム内容の充実はもとより、院生の充足率があらゆる面での大学評価の根拠になっているのです。第3に研究面では、外部資金の導入と研究の活性化に向けて、さらに努力が必要と考えます。今年の最重要目標の一つは、「学術フロンティア研究センターの継続と拡充」です。昨年末には、同センターの業績・施設等の外部評価を受け、高い評価を受けたところです。第4に、医療と福祉に関することに、大きな意義を感じ、誇りを持って欲しいと思つています。「人類ある所に医療有り」、私達はこの大学にあつて、直接または間接的に医療や福祉に関わり合っているのです。このことに人生の意義と価値、および誇りを持って行動しなければなりません。附属病院の改革は着々と進められ、徐々に成果をあげつつあります。介護老人保健施設「サンシャインシティ」及び本年10月開所予定の介護老人福祉施設「サンシャインプラザ」にも大きな期待が寄せられています。

第5に、職員の皆さんには、教育・研究・診療のあらゆる場で、これらの歯車がうまく噛みあってスムーズに回るよう、しっかりとサポートをお願いしたい。私はこの6年間に職員の皆さんが、多くの人々の目に触れない所で大変な努力をされているのを目の当たりにして、大いに感謝している者の一人です。今後ともしっかりと頑張ってもらいたいと思つています。

私の学長としての任期は、今年1月末で満了します。過去6年間にわたる法人側のご指導と教職員の皆様のご協力に心からの感謝をささげます。本学園が、諸先達が耕してこられた30年の大地の上に、さらにたくましい大樹として成長することを念じつつ、新年の挨拶といたします。



# 福岡歯科大学長に本田武司教授

12月に開催された理事会で、1月31日に任期満了となる青野一哉前学長の後任として、本田武司教授(口腔外科学分野)が、福岡歯科大学の第8代学長に就任することが決定した。任期は、平成15年2月1日から3年間。就任間もない本田教授に新学長としての抱負を聞いた。

## 「難局に立ち向かうチームワークを」

青野前学長の後任として、この度図らずも私が学長を務めることになりました。これからの任期3年間を考えますと、極めて混迷深い難しい時期に学長を務める事になり、大変な任務を仰せつかったという思いで一杯です。しかしこういう時期だからこそ大学全体を纏め、何とか打開策を見出して難局を乗り切らなければならぬと思っています。

今後の難しい局面とは、平成18年から施行される臨床実習開始前の共用試験制度、国家試験への実技試験導入、臨床研修制度の完全義務化に加え、平成16年から実施される国立大学の独立行政法人化と医・歯学部附属病院の統合等が挙げられます。平成18年からの問題については現在、着々と準備をすすめているところではありますが、まさにこれからの3年間に大きな山場となります。なお、国立大学の独立行政法人化や附属病院の統合は間接的に私立歯科大学に甚大な影響を与えるものと思われます。そこで、これらの事を踏まえて今後の抱負を述べさせていただきます。

大学の最も重要な責務は、学生教育であることは言うまでもありません。その根幹たるべき教員組織が改組されて、機能的な統合化による大講座制がスタートし、かつ教育カリキュラムの改革もこの数年のうちに滞りなく行われ、既に実施されています。その特色としては、本学の建学の精神に則った理念を基に6年一貫教育が推進され、これに合わせて平成12年度入学生から新しいカリキュラムが編成・実施されて、平成17年4月には最終年度を迎えます。しかし、大変急ではありますが平成18年

より歯科医師国家試験に実技試験の導入が検討されることになり、これに対応してカリキュラムの一部変更が余儀なくされつつあります。また臨床実習開始前の共用試験に対しても、時期と評価のやり方によっては現行のカリキュラムの変更が必要になります。さらに、同じく平成18年から完全義務化される臨床研修と卒前臨床実習との有機的連携などを考えますと、今後の教育は極めて臨床面を重視していかなければならないと思います。

研究面では、教員組織の改組によって従来の細分化された講座が関連分野による機能的統合を果たした結果、幅広い視野で研究が出来る環境が整備されました。しかし、他大学に比較して大学院の学生数、発表論文、さらには学外からの研究助成金の獲得額は少ないといわざるを得ません。今後、大学院生は勿論のこと、論文博士を目指す研究者や、より臨床にフィードバックできる研究を目指す研究者の増員を図るとともに、各研究者にはこれらの研究をもとに学外からの研究助成金の獲得にも励んでもらいたいと思います。

本学における学術フロンティア推進事業での研究も学術フロンティア研究センターの皆さん方の努力で、5年の期限内に立派な成果が挙げられましたが、さらに継続研究が立ち上げられて、多くの研究成果が達成されるものと期待しています。

臨床の充実に関しては、今後の教育が臨床重視で行われる可能性が高いため、多くのエネルギーをつぎ込む必要があるものと思われます。特に診療参加型の卒前臨床実習、



卒後臨床研修の充実のためには患者増は必須であり、そのためには医療者(歯科医師、医師はもちろん、コデンタル・コメディカル)側の意識改革、医療サービスの徹底、更なる病診連携の推進、医療環境の整備などを図らなければなりません。そのためには地域の歯科医師会や医師会を通して近隣の開業医との良好なコミュニケーションをとると同時に、同窓会との協力も欠かせません。

以上、細部に関しては割愛し骨子のみでの抱負でしたが、混迷の中を生き抜くためには、個々の小さな力ではなくチームワークのとれた、大きな力で立ち向かっていかなければなりません。ここ数年で教授陣の約半数近くが交代し若返ってきました。しかも多くの先生方は全国の大学から集まり、私学に理解を示すとともに本学に対する愛着と協力精神を持ち合わせています。しかも、それぞれが各分野のエキスパートでかなりのスキル保持者であります。今後は是非、このようなスキルを結集して更なるスキルアップを図り、この混迷の中を生き抜くと共に福岡歯科大学の更なる発展を目指して行く覚悟です。どうか本学教職員の皆様方のご協力、ご理解を頂きたいと思いますので宜しくお願い致します。

## 青野前学長が常務理事に就任

1月の理事会で、1月末に任期満了となる青野一哉前福岡歯科大学長が、常務理事に選任された。任期は平成15年2月1日から平成17年8月2日まで。

同氏は昭和53年4月福岡歯科大学教授に就任後、平成9年から2期6年にわたって福岡歯科大学長を務めた。常務理事就任について「田中健藏先生のご指導の下で、微力ではあるが、福岡歯科学園の発展に全力を挙げたい」と決意を語られた。



青野常務理事

## 附属病院長に本川教授 全身管理・医歯学部門長には大関教授

本田武司教授の福岡歯科大学長就任に伴い後任として、本川 渉教授(成育小児歯科学分野)が福岡歯科大学附属病院長に就任した。

同じく、本田教授の後任として、大関 悟教授(口腔腫瘍学分野)が全身管理・医歯学部門長に就任した。



本川病院長



大関教授

## 学術フロンティア研究の外部評価 ～研究成果発表会を開催～

平成14年12月24日、福岡歯科大学901講義室において、学術フロンティア研究の外部評価を受ける成果発表会が開催された。成果発表は関口睦夫前センター長、三木健良教授の研究説明にはじまり、「突然変異と発がんの抑制機構」（発表者：関口睦夫前センター長、高木康光助教授、石橋徹講師）及び「細胞増殖・分化の制御と歯科疾患治療へのアプローチ」（発表者：北村憲司教授、岡部幸司教授、三木健良教授）をテーマとする成果発表が行われた。菅野晴夫氏〔(財)癌研究会癌化学療法センター所長〕他2名からなる外部評価委員は、同成果発表会に出席した後学内視察を行い、講評を行った。



901講義室で行われた研究成果発表会



学内視察をする外部評価委員  
(左端が三木教授、右から2人目が高木助教授)

## 理事に藤崎氏就任



藤崎博近氏  
(事務局長)が  
平成14年10月  
1日付けで福岡  
歯科学園理事に  
就任した。

## 客員教授に 関口、中山両教授

関口睦夫教授と中山宏明教授が、1月1日付で学術フロンティア研究センターの客員教授に就任した。

## シラバスワークショップを開催

平成14年12月20日と21日の両日、附属病院4階の会議室を中心に「シラバス作成のためのワークショップ」が開催された。ワークショップには25名の教員が参加し、教育技法について熱のこもった研修を行った。



ワークショップの冒頭で挨拶する田中理事長

## 新教授、助教授紹介



さかがみ りゅうじ  
坂上 竜資 教授  
(歯周病学分野)

<略歴>  
北海道大学歯学部卒。米  
国オレゴンヘルスサイエンス  
大学歯周病学レジデント、  
北海道大学歯学部講師を  
経て本年1月教授に就任。  
博士(歯学)。北海道出身。

<抱負>

教育面では、学生に、患者心理を考えたアプローチの仕方、基本に立脚しながら高度な臨床を行う姿勢を身につけさせ、さらに研究面では、臨床に還元できる研究を行いたいと考えています。



くぎ まり  
久木 真理 教授  
(福岡医療短期大学・保健福祉学科)

<略歴>  
大分医科大学医学部卒。  
同大学院修了。福岡大学  
病院・内科第二医師などを  
経て、平成14年4月福岡医  
療短期大学に着任。本年2  
月教授に就任。医学博士。  
福岡県出身。

<抱負>

これまで内科・循環器の臨床と教育、研究を主にやってきましたが、福岡医療短大で医学一般を担当したこの1年間の経験も生かして、社会から信頼される介護福祉士、歯科衛生士の育成に努めたいと思います。

## 海外研修派遣

(\*印は発表者)

所属	職名	氏名	研修課題	派遣先	派遣期間
歯科医療工学 生体工学分野	教授	宮崎 光治	第4回国際歯科材料学会にてポスター発表のため(演題1:Dental application of the fluoride-releasing polyurethane elastomers. 発表者:*王ツ化、張川、宮崎光治、本川淳 演題2:Fluoride release of experimental composite resins. 発表者:*林秀、石田万寿子、川口稔、宮崎光治、本川淳 演題3:Leaching of phthalate esters in human saliva from tissue conditioners. 発表者:*川口稔、高橋裕、宮崎光治)	ホノルル (アメリカ)	自:H.14.10.28 至:H.14.11. 3
歯科医療工学 生体工学分野	講師	岡本 佳三	第4回国際歯科材料学会にてポスター発表のため(演題:Characteristics of Pure Titanium and Titanium alloy. 発表者:*岡本佳三、日高三郎、緒方稔泰、堀江和彦(徳力本店)、成瀬重晴(徳力本店))	ホノルル (アメリカ)	自:H.14.10.28 至:H.14.11. 3
歯科医療工学 生体工学分野	助手	川口 稔	第4回国際歯科材料学会にてポスター発表のため(演題:Leaching of phthalate esters in human saliva from tissue conditioners. 発表者:*川口稔、高橋裕、宮崎光治)	ホノルル (アメリカ)	自:H.14.10.28 至:H.14.11. 3
咬合修復学 口腔インプラント学分野	教授	松浦 正朗	日医学大会2002にてポスター発表のため(演題"Bone Augmentation and Implant Therapy for Patients who have Atrophic Maxillae." [萎縮上顎骨の再建とインプラント治療] 発表者:*松浦正朗、城戸寛史、森田雅之、山本勝己)	北京 (中国)	自:H.14.11. 2 至:H.14.11. 6
咬合修復学 冠橋義歯学分野	助教授	右近 晋一	日医学大会2002にて口演発表のため(演題"The spatial relationship of Temporomandibular joint in centric relation by using 3-dimensional modeling of MRI" 発表者:右近晋一、住吉周平、佐藤博信、石川昌嗣)	北京 (中国)	自:H.14.11. 2 至:H.14.11. 6
口腔・顎顔面 外科学講座 口腔外科学分野	講師	住吉 周平	日医学大会2002にて共同演者として出席(演題"The spatial relationship of Temporomandibular joint in centric relation by using 3-dimensional modeling of MRI" 発表者:右近晋一、住吉周平、佐藤博信、石川昌嗣)	北京 (中国)	自:H.14.11. 2 至:H.14.11. 6
成長発達歯学 矯正歯科学分野	教授	石川 博之	第4回アジア太平洋矯正歯科学会にて依頼講演のため(講演題名"Non-Surgical treatment of skeletal Class III malocclusions by compensatory rotation of dentoalveolar structure")	シンガポール (シンガポール)	自:H.14.11.20 至:H.14.11.25
成長発達歯学 矯正歯科学分野	講師	斉藤 敏昭	第4回アジア太平洋矯正歯科学会にてポスター発表のため(演題名"The Prevalence of TMJ Osteoarthritis in Orthodontic Patients at Fukuoka Dental College Hospital" 発表者:斎藤敏昭、堀田訓子、石川博之)	シンガポール (シンガポール)	自:H.14.11.20 至:H.14.11.25
成長発達歯学 矯正歯科学分野	講師	荒川 周幸	第4回アジア太平洋矯正歯科学会にてポスター発表のため(演題名"Quantitative evaluation of fatigue of the human masseter muscle by acoustic hardness measurements" 発表者:荒川周幸、石川博之)	シンガポール (シンガポール)	自:H.14.11.20 至:H.14.11.25

## 総合医学講座 (Medicine)

2001年4月の教員組織の改組により発足した総合医学講座は、全身管理・医歯学部門の1つであり、内科学分野と外科学分野から構成されている。教員の定数は両分野とも5名ずつ（教授1、助教授1、講師2、助手1）であり、現在の陣容は別表のとおりである。

学生教育では、歯科医療を実践する上で必要となる「全身的な視点」の重要性を強調している。3学年の前・後期に内科学と外科学の系統的な講義を行い、また、2・4・6学年の各テーマ別講義では、歯科と関連性の深い疾患や分野を扱っている。1995年4月からは、5学年で行われている臨床実習も担当し、臨床実地的観点から検査の実習や手術見学、病棟回診などを実施している。

さらに2001年から、麻酔管理学分野とともに大学院教育の主科目の一つとして、「総合医学基本テーマ」を担当している。臨床においては、医科の外来・

入院患者を診療しており、各々の専門分野は、内科が循環器・代謝・感染症、外科が消化器全般・乳腺である。幸いなことに両診療科で臨床医学における主要な領域をカバーしているため、全体としてバランスがとれており、疾患領域と治療手段の両面で相互補完的な診療形態になっている。

研究面では、従来からのテーマを継続しており、内科学分野は循環器、外科学分野は消化器癌に関する研究を進めている。現在の研究テーマは右欄のとおりである。



前列右から3人目が中島教授、その左が是永教授

中島 與志行(内科学分野・教授)=文  
text: Yoshiyuki Nakashima

教授=中島 與志行(医博)  
九州大学・昭和45年卒業

是永 大輔(医博)  
九州大学・昭和55年卒業

助教授=田代 英一郎(医博)  
福岡大学大学院・平成4年修了

講師=森山 耕成(医博)  
九州大学大学院・平成4年修了

犬塚 貞明(医博)  
長崎大学・平成元年卒業

野添 忠浩(医博)  
九州大学・平成3年卒業

安田 光宏(医博)  
九州大学・平成3年卒業

助手=本田雅之、大倉義文、東條秀明

非常勤講師= 7名

- 研究テーマ=1.循環器疾患における心臓レニン・アンジオテンジン系の役割  
2.脂質代謝、炎症と動脈硬化  
3.ウイルスの複製制御の解析  
4.がんの発育進展における活性酸素の意義と抗酸化防御機構  
5.消化器癌の生物学的特性と細胞周期制御の機構  
6.消化器癌に対する制癌剤の効果増強と毒性軽減

## 学術フロンティア研究センター (Frontier Research Center)

ヒトゲノム解読などに代表される生命科学やこれに基いた新しい分子医歯学の著しい進歩に対応するため、本学において研究の中心となる組織として、関口睦夫をセンター長として1998年11月に設置された。関口の生物分子工学研究所所長への転出に伴い、2002年4月に、後任センター長として三木健良が着任した。

本センターでは、「疾患における遺伝的、環境的要因の相互作用とその制御」のメインテーマの下で文部科学省の「学術フロンティア推進事業」による補助を受け、「突然変異と発がんの抑制機構」と「細胞増殖・分化の制御と歯科疾患治療へのアプローチ」の2つの研究を行ってきた。ゲノム研究を専門とする三木の参加を機会に、今後、口腔内・歯肉ポケット内細菌叢の構造と動態をゲノム解析の手法を適用することによって解析し、一挙に歯周疾患をはじめとする口腔感染症の解明に進むことを計画している。

過去5年間に得られた成果は、本年

3月7日に、天神・アクロス福岡円形ホールにおいて開催予定の「福岡歯科大学学術フロンティア研究公開シンポジウム」において発表する予定である。是非皆様方の参加をお願いしたい。

本センターとしては、新たに前センター長関口と九大名誉教授中山宏明を客員教授として迎えるなど組織の拡充を図る共に、これまでの研究の更なる発展と新たな展開を目指した質の高い研究を行う計画である。本大学の若い研究者の方々に、フロンティア研究へ参加し、世界レベル



学術フロンティア実験室の様子(手前が高木助教授)

三木健良(分子機能制御学分野・教授)=文  
text: Takeyoshi Miki

の研究を行って頂くことを期待したい。なお、「学術フロンティア推進事業」は本年3月に5年の研究期間がされるが、次の5年間の継続を目指して現在努力しているところである。

教授=三木 健良(農博)  
東京大学大学院・昭和41年修了

北村 憲司(歯博)  
九州大学・昭和50年卒業

助教授=高木 康光(理博)  
九州大学大学院・昭和64年修了

講師=石橋 徹(医博)  
九州大学大学院・平成6年修了

客員教授=関口 睦夫(理博)  
大阪大学大学院・昭和35年修了

中山 宏明(医博)  
九州大学大学院・昭和42年修了

- 研究テーマ=1.発がん抑制における突然変異制御遺伝子の役割  
2.細菌ゲノム解析とその歯科領域への展開  
3.イオンチャネルによる細胞機能制御

## 「学校歯科医会」



上田 克己 =文  
text: Katsumi Ueda

福岡市学校歯科医会が、平成11年に50周年を迎えました。昭和30年代より父(故)が専務として昭和50年代まで役職を務めました。小生も昭和40年代に理事として会に携わって現在に至っています。当時、児童生徒の口腔の状態は最悪でした。学校歯科医会は、口腔衛生事業指導の一環として、歯磨き体操、又、学校保健の事業として、う歯半減運動を推進してまいりました。校医はC1～C4の分類を連呼する歯科検診を行いました。現在はカリエスはCOC、歯周病、咬合の検診を行うようになりました。児童、生徒のカリエスは減少傾向、その反面食生活が変化し、固い物を食べなくなった為、歯列不正が多く見られるようになりました。昭和56年WHO(世界保健機関)は、次のような目標を立てました。

## 2000年における歯科保健目標

- |     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 目標1 | 5～6才児のむし歯のない者を50%以上にする。           |
| 目標2 | 12才児の1人平均のむし歯数(DMFT)を平均3.0歯以下にする。 |
| 目標3 | 18才の85%が全永久歯を保有しているようにする。         |
| 目標4 | 35～44才の無歯顎者の割合を現在より50%減らす。        |
| 目標5 | 65才以上の無歯顎者の割合を現在より25%減らす。         |
| 目標6 | 歯科保健向上を監視するための資料の蓄積と解析システムを確立する。  |

目標2の小・中・高生の口腔をあずかるのが、学校歯科医会です。福岡市学校歯科医会もこの目標達成のためあらゆる施策を試み、弛まぬ努力の結果、1998年の小学6年生で1.95、中学1年生で2.79とこの大事業を達成しました。

2世代に渡って学校歯科医会に携わってきましたが、これも会員諸先輩方々の理解と地道な努力の賜わりものと感謝しております。紙面を借りまして学校歯科医会のPRと御理解の上、今後も益々の御協力を御願い致します。

## 「最近思うこと」



野代 悦生 =文  
text: Etsuo Nodai

現在、小泉内閣のもと、構造改革の波が至る所を襲っているようですが、私たち歯科界にもこの波が容赦なく押し寄せてきています。

昨年10月よりの老人医療費の本人1割負担、その上、本年4月からは、サラリーマン本人の医療費3割負担が導入予定です。これらは、一般の歯科界だけではなく私の勤める大学にも確実に影響を及ぼして来ています。

さらに、大学では、制度改革として、国立大学の独立法人化や、平成18年度より施行予定の国家試験合格後1年間の臨床研修医制度の義務化、また、教育改革として、国民に臨床実習の理解と協力を得るため、臨床実習開始前(4あるいは5年生対象)に学生が備えるべき態度・知識・技能のチェックとして、CBT(Computer Based Testing、コンピューターを使用し、知識を問う試験)やOSCE(Objective Structured Clinical Examination、客観的臨床能力試験)等の共用試験が計画されています。これらに合格しないと臨床実習へは進めません。学生は、二重三重に評価され大変です。

教員側にも、最近ではFD(Faculty Development)があり、講演会やワークショップ等で教員自身の資質向上が行われています。さらに、自己評価や外部評価等があり教員も大変です。

近い将来、今までのように大学が学生を選ぶのではなく、学生が質の高い大学を選ぶ時代になろうとしていますので、学生に選ばれない大学は淘汰されます。これからは大学自体も生き残りを掛けたサバイバルゲームに否応なしに参加しなければならなくなります。

今日の続きが明日ではない時代がすぐそこに来ています。私たち歯科に携わる全員が一致団結して、希望のもてる歯科界にしなければならぬと思います。そして、これから歯科を目指す若者達から、やりがいのある良い職業に就いたと言ってもらえるようにしていきたいと考える、今日この頃です。

## 福歯大生が老健でボランティア

1月13日、福岡歯科大学ミュージックアソシエーション部の学生が、キャンパス内の老人保健施設「サンシャインシティ」でボランティア演奏を行った。演奏したのは4年生の淵上雅登さんら4名で、同施設の利用者である約50名のお年寄りを前にピアノ演奏や「ふるさと」などの童謡を披露した。参加したお年寄りはギター伴奏に合わせて歌い、「もっと大きな声で!」と学生に声援を送るなど、施設の職員も交え楽しいひと時を過ごした。



## 歯学体冬期部門開催

第35回全日本歯科学生総合体育大会冬期部門(事務主管:朝日大学歯学部)のラグビーフットボール部門が、12月22日より28日まで朝日大学グラウンドで開催された。本学は12月22日、初戦で松本歯科大学と対戦し惜しくも敗退した。



健闘したラグビーフットボール部員

## 平成15年度学友会総務委員長決まる



任期満了に伴う福岡歯科大学学友会総務委員長の改選が1月24日行われ、4年生の梅津 健太郎さんが総投票数579票中464票(80.1%)の信任投票を獲得し、4月1日付で平成15年度の福岡歯科大学学友会総務委員長に就任することが決定した。

## 激変する医療環境下における歯科医院経営のノウハウに喝采 —— 第2回福岡県三大学同窓会合同学術講演会 ——



主幹校:九大歯学部同窓会西原会長挨拶

平成14年12月1日、第2回福岡県三大学合同学術講演会が九州歯科大学主幹のもとに福岡県歯科医師会館で開催されました。この講演会は学術の向上と大学間の交流を目的としています。「勝ち残るための経営戦略」と題し、経営コンサルタントの稲岡先生からは21世紀の歯科医療の方向性や歯科医院経営について、また福岡、大阪で開業されている築山先生、岡田先生にはそれぞれ予防、インプラントの方面からみた歯科医院経営について講演して頂きました。多数の受講者により会場は埋めつくされ、300席準備した座席も十分でなく立ち見が出るほどの反響でした。歯科医院経営は高齢化社会を向かえた21世紀において、今後さらに厳しく、歯科医療は従来のスタイルとは一変すると言われています。過当競争を生き残っていくため、

今何をしておくべきか、何に備えるべきか、先を見通すことの重要性が増している中、成功を取めている講師の先生方の興味あるテーマの講演は大変貴重なものでした。先生方の共通点としては、患者さんを引き付ける魅力、人柄、優秀なスタッフ（歯科衛生士）の存在があると私なりに考えました。また医療の分野においてもより良いサービスを求められる時代になり、患者さんのニーズも多様化しています。確かな技術を兼ね備えた人間性のある歯科医師が求められているのは事実です。そのため情報収集あるいは研修の場の一つとして学術講演会の果たす役割は大きいと考えました。第2回福岡県三大学合同学術講演会が成功に終わり、第3回は福岡歯科大学が主幹校として開催を予定しています。この会を継続し発展させていくことが必要であると考えました。

記:学術委員 前田顕之(17期)



ディスカッションの様相

### 同窓会通信

同窓会副会長 升井一朗(1期)

福岡医療短大の広報活動で各地の高校を訪問し、進学担当の教諭や校長とお話する機会があります。福岡歯科大学は名実ともによく知られた存在ですが、短大の知名度は今ひとつといった状況です。歯科衛生士と介護福祉士を養成する短大ですから、世間一般からは馴染みが薄いのもかもしれません。残念なことに、高校の先生から「歯科衛生士とはどんな職業ですか?」と聞かれます。「簡単に言えば、虫歯と歯周病の予防や保健指導と、歯科医の診療の補助をする職業です」と答えています。歯科衛生士の知名度もまだまだ低いようです。しかし、生活習慣病ともいえるウ蝕と歯周病には予防と保健指導が必須ですから歯科衛生士の活躍する場面は多いし、高齢社会になり訪問診療や口腔衛生指導など、業務内容も拡大しています。歯科衛生士の知名度が低い理由に、歯科医師が歯科衛生士を十分に活用していないことがあると思います。

ある統計によれば、歯科衛生士が2名以上勤務する医院では収入が増加しているが、1名以下では横ばいか下降傾向にあるそうです。つまり歯科衛生士一人では歯科医の診療補助で手一杯ですが、もう一人いると予防処置や保健指導ができるので収入増にも繋がります。歯科衛生士とのチームアプローチでなければ、予防や指導を含めた医療サービスは提供できないばかりか、収入にも響いてくるという訳です。診療内容も高い質を求められる時代になっています。「痛みがなくなる噛める」治療で満足されていた時代から、成人矯正、審美補綴、インプラントを含めたトータルな診断と治療が要求されています。とりわけ難症例に対しては、ひとりの歯科医師がすべてをカバーすることは難しいので、大学病院や専門医とのチームアプローチが必要になります。同窓会や大学、歯科医師会のネットワークを十分に活用いただけたらと改めて思います。

### 卒業生トーク

## 「黄昏はまだ早い?」



林 一郎(4期)

大学を昭和57年に卒業して、なんとまああつという間の20年。卒後すぐ父とともに2年半、その間福岡の義兄の歯科医院に週半分通う日々。その後父の病気でどこにも行けず右も左も分からないまま診療、そして持ち前のノー天気さで毎日を過していた。父が亡くなったあとは色々大変だったが、唯一支えてくれたのは、同級生が誘ってくれたスタディーグループのメンバーであった。彼らとともに歯科医療に対する情熱、やりがいやチョコッと見つけたことが現在も?続いている。

最近やたらにインプラント・審美歯科と、もてはやされているようだが診療の基礎である診断(X-線を含め)はもちろん、エンドやペリオ、さらに患者さん個人の咬合をある程度理解した上でのインプラントや審美であると考え。ウ蝕も歯周病も感染症である、との見解も出ているようだが。卒後はインレー、CRひとつでも咬合に影響するとの思いが強かった。この問題はどうしたらいいのだろうか? 試行錯誤しながらの毎日。深い考えもないくせに・・・悩んだフリをしていると・・・頭の中で亡くなった父の言葉が(下手な考え休むに似たり)などと浮かんだり・・・。企業などの経営戦略講座・マネージメント講座などに顔を出し、生産性の向上の為のプログラムを導入した方がいいもの、翌年からは税金に追いまわされる始末。やはりやめようか・・・。

卒後は10年くらいは何も分からないまま邁進し、その後は5年毎に変化しているようで体力・気力も衰え、眼も悪くなり、ルーペに頼る診療、歯周のおべ、マージン形成など、上も下も知らなければ分からないことだらけ。下は十分過ぎるほど見たつもりでも、上も経験したことないくせに医療は中庸であるべきである、などと勝手に思っている。

さてこれからの人生はなど、ろくな設計もできないくせに・・・一人思いにふける自分をいとおしく、黄昏てみたり・・・たかが歯科医されど歯科医。

# 平成15年度入学試験日程

福岡歯科大学			
区分	歯学部歯学科		大学院歯科学研究科
	センター試験利用入試	一般入学試験B日程	二次募集
願書受付期間	1月20日(月)～2月12日(水)	2月21日(金)～3月10日(月)	2月24日(月)～3月20日(木)
試験日	2月17日(月)	3月12日(水)	3月25日(火)
試験科目	センター試験、小論文、面接	外国語、理科、数学、小論文、面接	専攻科目、外国語(英語:共通・専攻)、面接
合格発表日	2月20日(木)	3月14日(金)	3月27日(木)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp		

福岡医療短期大学					
区分	歯科衛生学科		保健福祉学科		
	一般入学試験B日程	一般入学試験C日程	一般入学試験B日程	一般入学試験C日程	一般入学試験D日程
願書受付期間	2月10日(月)～2月27日(木)	3月3日(月)～3月17日(月)	2月10日(月)～2月27日(木)	3月3日(月)～3月17日(月)	3月20日(木)～3月29日(土)
試験日	3月1日(土)	3月19日(水)	3月1日(土)	3月19日(水)	3月30日(日)
試験科目	小論文、面接	小論文、面接	小論文、面接	小論文、面接	小論文、面接
合格発表日	3月6日(木)	3月20日(木)	3月6日(木)	3月20日(木)	3月31日(月)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 歯科衛生学科入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp		〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 保健福祉学科入試係 TEL.092-801-0923(直通) FAX.092-801-4473 E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp		

## 平成15年度入学試験結果



校名	試験区分	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数
福岡歯科大学	推薦入試	約30名	66名	66名	30名
	一般入試A日程	約46名	244名	234名	60名
福岡歯科大学大学院	一次募集	18名	5名	4名	4名
福岡医療短期大学 (歯科衛生学科)	専攻科	10名	10名	10名	9名
	推薦入試	約40名	49名	49名	49名
	一般入試A日程	約30名	41名	36名	36名
福岡医療短期大学 (保健福祉学科)	推薦入試(指定校)	約20名	12名	12名	12名
	推薦入試(I)	約20名	8名	7名	7名
	推薦入試(II)	約10名	3名	3名	3名
	一般入試A日程	約10名	11名	11名	11名

## ミャンマー連邦国における医療ボランティア活動

口腔・顎顔面外科学講座  
教授 大関 悟

昨年11月から12月にかけての2週間、ミャンマーでの医療援助活動に行き参りました。この活動はNPO日本口唇口蓋裂協会(JCPF)のもとで外務省の海外開発援助(ODA)を受けて、ミャンマーの首都ヤンゴン市ヤンゴン歯科大学(IDM: Institute of Dental Medicine, Yangon)を拠点として、口唇口蓋裂の無料手術を主体とした医療援助とその技術指導や学生、研修医、口腔外科スタッフを対象とした口腔外科学の講義を行っています。本学理事の田代英雄先生と私が中心となり、九州大学在籍時代の1995年から開始今年で8年目になりますが、口唇口蓋裂や口腔癌などの口腔外科の手術をこれまで150例近く行ってきました。

活動当初はヤンゴン歯科大学には病棟がないため全身麻酔下の手術が行えず、口腔外科医(歯科医)が顔面や頸部の皮膚にメスが加えられない状況でした。しかし我々の活

動に伴って歯科大学での全麻下手術が開始され、3年後に約30床の口腔外科病棟を持ち、入院管理下に手術が行えるようになりました。また現地口腔外科医への手術指導や技術移転により、今では彼等が独自で手術ができるようになってきました。

4年前にミャンマー第2の都市マンダレーに第2の歯科大学が設立されたのに伴い、日本政府とミャンマー政府およびJCPFの三者の共同出資で、「ミャンマー・日本友好口腔外科手術棟」の建設が計画され、昨年竣工しました。そこで今回は理事長の田中健藏先生にその手術棟のオープニングセレモニーにご参列いただくとともに(※1)、ヤンゴンとマンダレー歯科大学および我々の援助活動の訪問視察をしていただきました(※2)。田中先生はマンダレー歯科大学のすぐ隣のキャンパスに日本政府(JICA)の援助による教育病院の設立計画のため20年前にこの地を訪れておられ、大変感慨深い様子でした。

オープニングセレモニーのあと、早速こけら落としの手術として8名の口唇口蓋裂の手術を無事行うことができました。日本で廃棄処分となった中古の手術機器や機材をかき集めて行いましたので、設備の点で色々問題がありましたが、ヤンゴンとともにマンダレーにも手術拠点が出来たことにより、交通費がなくヤンゴンまで手術を受けに來れなかった貧しい患



(※2)ヤンゴン歯科大学での手術視察者さんの手術が可能となりました。「このような機会がなかったら、一生手術を受けられなかった」と涙を流して喜ばれる患者さんや家族の方々に囲まれると(※3)、医療の原点に立ち戻った喜びを感じます。

今回、田中先生とヤンゴン歯科大学バイソ一学長との会見の際に、福岡歯科大学と姉妹校としての学術交流が提案され、現在その具体的な交流計画と提携同意書の文面を検討中です。今後は福大のスタッフや学生を加えた医療ボランティア活動を通じてヤンゴン、マンダレー、両歯科大学との学術交流を進めてゆきたいと思っています。



(※3)マンダレー歯科大学で手術を受けた患者・家族の皆さん



(※1)「ミャンマー・日本友好口腔外科手術棟」のオープニングセレモニー後の記念撮影